

金曜 学ぶ・育む

野付湾の自然の仕組み体感

「ほらシマエビが捕れたよ！」「まあ本当」「あらら逃げちゃった！」

北方領土の国後島を、わずか16[※]先に望む別海町の野付湾。様々な生き物の住み家となる海草のアマモが生い茂った浅瀬に、大きな歓声があがった。野付中学校(飯田雄士校長、生徒数40人)の3年生15人が8月下旬、湾に足を運んで体験した「アマモ学習」の一場面だ。

水鳥を食物連鎖の頂点とする湿地の生態系を守るラムサール条約に登録された野付湾は、名物の北海シマエビやホタテなど魚貝類の豊富さで知られる。湾に面する尾岱沼地区では、湾の自然やその保護、産業とのかかわりなどを、幼稚園から小学校、中学校の12年間を通じて学ぶ「野付学」が、野付漁協をはじめ地域の協力を得て展開されている。「アマモ学習」は、その仕上げとなる。

野付学の起源は、1963年

尾岱沼の「野付学」(別海町)

幼小中一貫 半世紀超の伝統



度に漁協の提唱で始まった野付中の生徒によるチカの採卵学習だ。湾で捕れる体長20[※]ほどのチカの腹を指で押し、卵をしほり取る。例年は4月半ばに全生徒が参加し、約2億粒の受精卵を4日から5日ほどかけて採取している。

さらに幼稚園ではアサリなどを捕る「海遊び」や「山菜採り」、小学校では「野付半島自然体感ツアー」「牛の学習」「冷凍加工場見学」など。中学では「サケの調理実習」や「ホタテ燻製づくり」「シトナム人技能実習生との交流」などの催しが実施されてきた。



国後島を望む野付湾のアマモ学習で生き物を探す野付中の生徒たち＝別海町

2011年度には、これらのうち野付小の取り組みを「野付学」と命名。16年度には12学年の取り組みを統合し、18年度からは「幼小中一貫のふるさとキャリア教育」として体系化した。昨年12月には、漁業や学校の関係者、町内会などでつくり、「野付学」を支えてきた野付中学校区学校運営協議会が、国のキャリア教育推進連携表彰の最優秀賞に選ばれた。

だが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、チカの採卵学習などが中止となった。延期後に何とか実施できた中学3年の「アマモ学習」に参加した富崎琢斗君(14)は、「父はサケ定置網漁の漁師だけど、船の技術から魚のオス、メスの見分け方まで多くを野付学で学んだ。今後の自分にも生きる」という。15[※]ほど離れた床丹地区から通う伊藤葵さん(14)も、「アマモがエビや貝などの生き物を守り、育んでいることなど、野付湾での自然の仕組みが実際によくわかった」。

運営協議会の尾形義弘会長(53)も、国後島出身の祖父から3代目の漁師だ。「私も3人の息子もチカの採卵実習をした。地域の子どもたちは、野付学から自然を守る意義や礼儀をよく学んでいる。コロナで今年は残念だった面もあるが、さらに発展させていきたい」と、今後に意欲を見せている。

(大野正美)

野付半島 今年もきれいに 地元中学生がごみ拾いに汗

野付半島でごみ拾いをする野付中の生徒たち



【別海】野付中1〜3年の生徒39人が、野付半島で「クリーン作戦」と名付けた毎年恒例のごみ拾いを行った。

生徒たちは19日、学年ごと3班に分かれ、半島中間部にあるナラワラ駐車場から道路の終点までの約8キロの道路沿いに落ちていたペットボトルや空き缶、た

ばこの空き箱などを、トンダで拾った。1時間ほどで燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみがそれぞれ20キログラム集まった。

ごみ拾いは1984年から続く学校の伝統行事。例年は春先に行われるが、今年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で日程がずれ込んだ。

3年生の高木理帆さんは「たばこのごみが目立った。観光客が少ないせいとか、ごみの量は少なかったが、ポイ捨ては自分も絶対しないように気をつけたい」と話していた。(小野田伝治郎)

まち

根室 (26日) ▽図書館
バス巡回Ⅱしらかば保育園
(午前11時) 柏陵中(午後0時55分)

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、催しなどが中止、延期される場合があります。

76.3MHz
F M ねむろ

(24日)
24・00 J・J・F!
24・30 スペースシャワー
25・00 アニメ専門文化
26・00 花火の星
(25日)
7・05 ホップノサップ
ウエイクアップ
9・00 元気はつらつ
10・00 ドンッ!と根室
13・00 なつかしの音楽館
14・00 ビートルズNO5
14・30 ロック裁判所
15・00 アフパラ
15・00 やつとこあつとこ
サンセット
18・18 ロシアの時間
18・18 アーティストM
18・50 防災アラカルト
19・00 花※花スタイル
19・30 ENJOY湘南
TEL・FAX29・2484